

ほなゐ歴史通信

第113号

2024(令和6).12.1

水郡線全線開通九十周年を祝して

令和六年(二〇二四)十二月四日、水郡線は、全線開通九十周年を迎える。沿線地域では、これを記念し、様々なイベントが開催されている。本誌も、今号を水郡線全線開通九十周年記念号とし、水郡線に関する原稿五編を掲載して祝意を表したい。

さて、水郡線の歴史を顧みる時、絶対に欠かすことができない人物がいる。福島県東白川郡笹原村(現在の塙町)の白石禎美である。水郡線は、沿線地域の人々による熱心な誘致運動により敷設された路線であるが、何を隠そう、その誘致運動が始まるきっかけを作ったのが白石その人なのである。

今から百十七年前の明治四十年(一九〇七)六月、笹原村で村会



白石 禎美

議員を務めていた当時二十七歳の白石は、交通の便を改善し、地域の発展を図るため、白河高萩間を何度も歩き、同区間への鉄道敷設を構想した。そして、立憲政友会所属で北海道選出の衆議院議員だった伯父の白石義郎を通じて、鉄道院に対して当時敷設が計画されていた

郡山平間(磐越東線)の比較線として白河高萩間を調査するよう求めた。明治四十二年(一九〇九)十月、鉄道院は白河高萩間を調査したが、地形や交通量などの観点から、白河高萩間は郡山平間に劣るとの結論に至った。

白河高萩間への鉄道敷設は水泡に帰したが、白石が屈することにはなかった。白石は、白河高萩間という横断線から縦断線へと発想を転換し、新たに白河水戸間への鉄道敷設を構想したのである。また、伯父を通じて、政友会所属で茨城県選出の衆議院議員だった根本正の協力を得た。そして、明治四十四年(一九一)三月七日、第二十七回帝国議会において、根本ら四名は、「鉄道建設ニ関スル建議」を衆議院に提出し、政府に対して白河水戸間への鉄道敷設を求めた。建議は、同年三月十七日の本会議で可決された。

後日、福島県内では、水戸須賀川間や水戸郡山間への鉄道敷設を求める声が上がった。また、政府が水戸郡山間に関心を持っていることも判明した。これらを背景として、その後は、水戸郡山間への鉄道敷設、すなわち水郡線の敷設を求めることになった。

建議の可決を契機に、誘致運動が開始された。交通の便が悪かった保内郷では、益子彦五郎(大子町長)、桜岡力(袋田村長)、石井栄次郎(医師、のち大子町長)、外池太一郎(呉服太物肥料商・醤油醸造業)など、多くの人々が熱心に誘致運動に取り組んだ。

白石、根本、そして沿線地域の人々による熱心な誘致運動の結果、白石による白河高萩間への鉄道敷設構想から二十七年を経た昭和九年十二月四日、水郡線は全線開通を迎えた。

地域の発展を願う二十七歳の若者の構想に始まり、沿線地域の人々による熱心な誘致運動の結果、誕生した水郡線は、全線開通以来、九十年にわたって運行し、沿線地域の発展を支えてきた。これから先も、水郡線と沿線地域がより良い未来を共に歩むことを願ってやまない。

(大金祐介)

編集
集人

発行

発行日

大子町歴史資料調査研究会

齋藤 典生（大子町歴史資料調査研究員）

藤井 達也（大子町歴史資料調査研究員）

大金 祐介（大子町歴史資料調査研究員）

神長 敏（大子町教育委員会事務局）

大金 真理子（大子町教育委員会事務局）

大子町教育委員会

久慈郡大子町大字池田二六六九番地

☎ 0295（72）1148

二〇二四年（令和六）十二月一日